



令和元年6月12日

研究主題 「考えることを楽しむ！」

～文教大学付属小学校型 ディープアクティブラーニング
学びの深化を目指して「自分の考えをもち、伝え合い、高め合う力を育む」～

令和元年6月12日(水)、本年度第1回目の校内研究授業を行った。今年度は研究主題である『考えることを楽しむ！～文教大学付属小学校型ディープアクティブラーニング 学びの深化を目指して「自分の考えをもち、伝え合い、高め合う力を育む」～』について研究を重ねていく。



第1回目は社会科の研究授業で、3年1組は、『はたらく人とわたしたちの暮らし』を山口拓哉教諭が、4年2組は、『住みよいくらし』を濱崎ひかる教諭が行った。

3年1組は、スーパーやコンビニエンスストア、インターネット、商店街などに分かれて、それぞれの良いところをグループになって発表し、その後、気付いたことを発表した。子どもたちは、いきいきと自分が調べた店の良さを述べた。



4年2組は、ごみの減量について、自分たちができないことはないかということを考える授業だった。資料をもとに子どもたちが主体的に考える授業となった。子どもたちは、それぞれ、無理をしないで継続できそうな活動を話し合った。

研究協議会では、今年度も、「共感」「課題」「教師」「児童」の4要素に沿って良かった点と改善すべき点、アドバイスを付箋に記載しグループごとにまとめ成果と課題の発表を行った。また、今回は東京学芸大学附属小金井小学校の岸野存宏先生を講師としてお招きし、授業と協議会の指導・講評も頂いた。3年生の授業においては、それぞれの店を比較



したくなるような授業が大切だということや、4年生の授業では、濱崎教諭が子どもの思考を意識した授業構想が良かったことなどご教授いただいた。社会科は、単元全体で深まり、それが「深い学び」へとつながっていくことや、岸野先生の実践の授業のお話も伺うことが大変有意義な今年度、初めての校内研究となった。令和の時代も、教諭自身が自分を高めながら、質の高い授業をするために、日々、研究を積み重ねていく。